静岡市立静岡看護専門学校

講義要綱

令和４年度
（２０２２）

学籍番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学生氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＜令和4年度 1年次生履修科目＞　目　次

＊印:2022年開講科目

Ⅰ. 基礎分野

＊ 1 教育学 ・・・・・ 5
＊ 2 心理学 ・・・・・ 6
＊ 3 日本語表現 ・・・・・ 7
4 ものの見方・考え方
＊ 5 生物学 ・・・・・ 8
＊ 6 情報科学 ・・・・ 9
＊ 7 健康とスポーツ(必修選択) ・ 10
8 生命倫理学
9 家族社会学
＊ 10 暮らしと健康 ・・・・ 12
＊ 11 外国語会話(必修選択) ・・ 13
12 英語
13 人間関係論
＊ 14 ピア・サポート論 ・・・・16

Ⅱ. 専門基礎分野

解剖生理学　使用テキスト・参考文献 ・・17
＊ 1 解剖生理学Ⅰ ・・・・ 18
＊ 2 解剖生理学Ⅱ ・・・・ 19
＊ 3 解剖生理学Ⅲ ・・・・ 20
＊ 4 看護のための人間論 ・・・ 21
＊ 5 生化学 ・・・・ 22
＊ 6 病理学 ・・・・ 23
病態生理と治療　使用テキスト・参考文献・・24・25
＊ 7 病態生理と治療Ⅰ ・・・・ 26
＊ 8 病態生理と治療Ⅱ ・・・・ 27
＊ 9 病態生理と治療Ⅲ ・・・・ 28
10 病態生理と治療Ⅳ
11 病態生理と治療Ⅴ
＊ 12 看護のための疾病論 ・・・ 29
＊ 13 微生物学 ・・・・ 30
＊ 14 薬理学 ・・・・ 31
15 臨床薬理学
16 看護サイエンス
＊ 17 保健医療論 ・・・・ 32
18 栄養管理特論
＊ 19 社会福祉論Ⅰ ・・・・ 33
20 社会福祉論Ⅱ
21 法と関係法規
22 公衆衛生学

Ⅲ. 専門分野

＊ 1 看護の原理 ・・・・ 34
＊ 2 看護のための認識論 ・・・35
＊ 3 看護の方法Ⅰ ・・・・ 36
＊ 4 看護の方法Ⅱ ・・・・ 37
＊ 5 看護の方法Ⅲ ・・・・ 38
＊ 6 看護の方法Ⅳ ・・・・ 39
＊ 7 看護の方法Ⅴ ・・・・ 40
＊ 8 看護の方法Ⅵ ・・・・ 41
9 看護の方法Ⅶ
＊ 10 看護基礎力アップ演習 ・・・・ 42
11 看護理論
＊ 12 地域と暮らしを知る演習Ⅰ ・・・・ 43
＊ 13 地域と暮らしを知る演習Ⅱ ・・・・ 44
14 家族の理解と看護
15 地域・在宅看護の展開Ⅰ
16 地域・在宅看護の展開Ⅱ
17 地域・在宅看護の探究
＊ 18 成人看護概論 ・・・・ 45
19 成人看護の展開Ⅰ
20 成人看護の展開Ⅱ
21 成人看護の展開Ⅲ
22 成人看護の展開Ⅳ
23 成人看護学習支援演習
＊ 24 老年看護概論 ・・・・ 46
25 老年看護の展開Ⅰ
26 老年看護の展開Ⅱ
27 老年看護の展開Ⅲ
＊ 28 小児看護概論 ・・・・ 47
29 小児看護援助論
30 小児看護の展開Ⅰ
31 小児看護の展開Ⅱ
＊ 32 母性看護概論 ・・・・ 48
33 母性看護援助論
34 母性看護の展開Ⅰ
35 母性看護の展開Ⅱ
36 精神保健論
37 精神看護概論
38 精神看護の展開Ⅰ
39 精神看護の展開Ⅱ
40 看護マネジメント
41 医療安全
42 災害看護・国際看護
43 看護研究
44 看護実践力アップ演習

Ⅳ. その他

学校カウンセリング ・・・・・ 94

＜令和4年度 2･3年次生履修科目＞　目　　次

＊印:2022年開講科目

Ⅰ. 基礎分野

1 教育学
2 心理学
3 論理学Ⅰ
＊ 4 論理学Ⅱ ・・・・・ 49
5 生物学
6 情報科学
7 健康とスポーツ(必修選択)
8 生命倫理学
＊ 9 社会学 ・・・・・ 50
10 家政学
11 外国語Ⅰ(必修選択)
＊ 12 外国語Ⅱ ・・・・・ 51
＊ 13 人間関係論 ・・・・・ 52

Ⅱ. 専門基礎分野

解剖生理学　使用テキスト･参考文献
1 解剖生理学Ⅰ
2 解剖生理学Ⅱ
3 解剖生理学Ⅲ
4 解剖生理学Ⅳ
5 生化学
6 病理学

病態生理と治療　使用テキスト･参考文献･･53
7 病態生理と治療Ⅰ
8 病態生理と治療Ⅱ
9 病態生理と治療Ⅲ
＊ 10 病態生理と治療Ⅳ ・・・・・54
＊ 11 病態生理と治療Ⅴ ・・・・・55
12 微生物学Ⅰ
13 微生物学Ⅱ
14 薬理学Ⅰ
＊ 15 薬理学Ⅱ ・・・・・ 56
16 保健医療論
17 栄養管理特論
＊ 18 社会福祉論Ⅰ ・・・・・ 57
＊ 19 社会福祉論Ⅱ ・・・・・ 58
＊ 20 法と関係法規 ・・・・・ 59
＊ 21 公衆衛生学 ・・・・・ 60

Ⅲ. 専門分野Ⅰ

1 看護の原理
＊ 2 看護の変遷 ・・・・・ 61
3 看護の方法Ⅰ
4 看護の方法Ⅱ
5 看護の方法Ⅲ
6 看護の方法Ⅳ
7 看護の方法Ⅴ
8 看護の方法Ⅵ
9 看護の方法Ⅶ
10 看護の方法Ⅷ
＊ 11 看護サイエンス(自由履修) ・・・・・62

Ⅳ. 専門分野Ⅱ

1 成人看護概論

成人看護の展開　使用テキスト･参考文献･･･63･64
＊ 2 成人看護の展開Ⅰ ・・・・・ 65
＊ 3 成人看護の展開Ⅱ ・・・・・ 66
＊ 4 成人看護の展開Ⅲ ・・・・・ 67
＊ 5 成人看護の展開Ⅳ ・・・・・ 68
＊ 6 成人特殊技術演習A ・・・・・ 69
＊ 成人特殊技術演習B ・・・・・ 70
7 老年看護概論

老年看護の展開　使用テキスト･参考文献･･･71･72
＊ 8 老年看護の展開Ⅰ ・・・・・ 73
＊ 9 老年看護の展開Ⅱ ・・・・・ 74
＊ 10 老年看護の展開Ⅲ ・・・・・ 75
11 小児看護概論Ⅰ
＊ 12 小児看護概論Ⅱ ・・・・・ 76
＊ 13 小児看護の展開Ⅰ ・・・・・ 77
＊ 14 小児看護の展開Ⅱ ・・・・・ 78
15 母性看護概論
＊ 16 母性看護の展開Ⅰ ・・・・・ 79
＊ 17 母性看護の展開Ⅱ ・・・・・ 80
＊ 18 母性看護の展開Ⅲ ・・・・・ 81
＊ 19 精神保健論 ・・・・・ 82
＊ 20 精神看護概論 ・・・・・ 83
＊ 21 精神看護の展開Ⅰ ・・・・・ 84
＊ 22 精神看護の展開Ⅱ ・・・・・ 85

Ⅴ. 統合分野

＊ 1 在宅看護概論 ・・・・・ 86
＊ 2 在宅看護の展開Ⅰ ・・・・・ 87
＊ 3 在宅看護の展開Ⅱ ・・・・・ 88
＊ 4 在宅看護の展開Ⅲ ・・・・・ 89
＊ 5 看護管理 ・・・・・ 90
＊ 6 医療安全 ・・・・・ 91
＊ 7 災害看護 ・・・・・ 92
＊ 8 看護研究 ・・・・・ 93

Ⅵ. その他

学校カウンセリング ・・・・・ 94

履修を始めるにあたって

1．主体的な学習

学習の成果をあげるためには、単に授業に参加するだけではなく主体的な学習が必要となります。自発的で積極的な学習が行われてこそ、豊かな学びができます。ゆえに、教科書はもちろん、授業で提示した参考文献や図書室にある関連図書を読んだり、教員や先輩・友人とのディスカッション等を通じて学びあい、深めていきましょう。

2．卒業要件

本学に３年以上在学し、以下に示した単位を修得することで、①専門士の称号、②看護師国家試験の受験資格③保健師・助産師学校の受験資格を得ることができます。

〈令和４年度 １年次生〉

卒　業　単　位　数　－　106 単位

領　域	単位数
基礎分野	14 単位
専門基礎分野	22 単位
専門分野	47 単位
臨地実習	23 単位

〈令和４年度 ２・３年次生〉

卒　業　単　位　数　－　97 単位

領　域	単位数
基礎分野	13 単位
専門基礎分野	21 単位
専門分野Ⅰ	10 単位
専門分野Ⅱ	22 単位
統合分野	8 単位
臨地実習	23 単位

3．履修のながれ

履修ガイダンス

↓

履修科目の決定　卒業要件の確

↓

履　修　登　録

↓

前　期　の　授　業　受　講

↓

修　了　試　験

↓

成　績　評　価

↓

単　位　修　得

後　期　の　授　業　受　講

↓

修　了　試　験

↓

成　績　評　価

↓

単　位　修　得

↓

成　績　発　送

４．教育課程

１）講義・演習科目

基礎分野は、専門基礎分野、専門分野の基礎として位置づけ、幅広いものの見方や考え方、看護を学ぶ上で必要な人間や人間の生活の理解をしていきます。教育内容は、「科学的思考の基盤」と「人間の生活・社会の理解」で構成されています。自ら選択できる「必修選択科目」もあります。

専門基礎分野は、看護学を学ぶ上で基礎となる３つの教育内容で構成されています。人間の日常生活行動を援助する際に必要な生命活動を認識できるための「人体の構造と機能」、健康障害の病態生理や治療を障害別とし援助の根拠の理解へと関連づけられるための「疾病の成り立ちと回復の促進」、人々が生涯を通じて健康や障害の状態に応じて、社会資源を活用できるように知識や基礎的能力を養う「健康支援と社会保障制度」で構成されています。

＜令和４年度１年次生＞

専門分野は、基礎看護学、地域・在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、看護の統合と実践の領域別に看護実践の理論と方法を学びます。「ナイチンゲールの理念」を継承した教育内容を、積み重ねながら学習できるように構成されています。

＜令和４年度２・３年次生＞

専門分野は、看護学について系統的に理解する内容です。専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野の３つの分野に分け、「ナイチンゲールの理念」を継承した教育内容を中心に、積み上げながら学習できるように構成されています。

専門分野Ⅰでは、看護の原理とはたらきを学ぶ内容とし、専門分野Ⅱ、統合分野の学習の土台となる看護の概念や役割、看護実践の基礎となる看護技術とその習得、看護過程の方法について学ぶ教育内容と、看護技術の根拠や原理原則が学べるよう自由履修科目として「看護サイエンス」の科目が設定されています。

専門分野Ⅱは、小児看護学、成人老年看護学、母性看護学、精神看護学の領域別の看護実践の理論と方法を学びます。各領域において、対象に応じた看護実践ができるための基礎知識、技術、対象を取り囲む社会環境や、チーム医療、看護ケアを幅広く理解するための内容となっています。

統合分野は、これまで学んできた知識・技術を応用して生活の場における看護、看護を発展させる機能の理解、知識の統合を学ぶ内容となっています。

２）必修科目・選択必修科目

すべての科目は、必修科目・必修選択科目のいずれかに指定されています。

（１）「必修科目」とは、それを履修することが義務づけられている科目のことで、この科目の単位が未修得の場合は、卒業認定が受けられません。

（２）「必修選択科目」とは、指定された科目の中から希望するクラスを任意に選択して履修することが義務づけられている科目のことで、この科目の単位が未修了の場合は卒業認定が受けられません。

（３）「自由履修科目」とは、卒業要件には入っていませんが、学習を深めるために科目設定した科目です。全員が履修してくれることを望みます。（令和４年度 ２年次生のみ開講）

3）授業の形態

本学では、学期制を導入しています。学期制とは、15週を単位に授業を登録し、定期試験を実施後、「単位認定」をする制度です。授業科目は原則として、前期(4月)後期(10月)毎に開講されます。また、クラスは教育上の効果を考慮して受講者を適当な規模の集団に分けたものです。

4）出席

授業内容を理解するためには、平素の授業への出席が必要なことはいうまでもありません。出席日数が不足した場合には定期試験の受験資格が与えられず、単位が認定されないので注意してください。

5）休講・授業変更

各授業担当者において、やむをえない事情により授業を休講、または変更することがあります。休講または変更があった場合は、掲示板に掲示します。ただし、急な変更が生じた場合は Google Classroom にて連絡します。確認しないことで生じる不利益事項は、救済の対象にはなりません。電話での問い合わせには応じません。

5．単位と成績

1）単位

本学での学修は、すべて単位制になっています。単位は、学修の量を数字であらわすもので、単位数は授業科目によって異なります。授業形態は、講義・演習・実習があります。単位制とは、科目の授業を受け、試験に合格した場合、定められた単位が与えられる制度のことです。すべて、この単位数によって，学修の達成度が計算され、その単位の合計が一定数を満たし、卒業要件のための諸要件を充足した者に対し卒業認定が行われます。単位の認定には、次の要件が必要です。①単位認定を受けようとする科目について、履修登録がされている、②授業に出席し、履修に必要な学習がされている、③科目の試験を受験し(レポート・論文・筆記試験・授業態度等)その試験に合格したものです。

2）再試験・追試験

再試験は合格点に満たない場合実施されるものです。

追試験は、やむを得ない事情により、**受験ができなかった場合に実施されますが、診断書・証明書の添付が必要となります。**また追試験の再試験は実施しません。個人の責任において「再試験受験願」「追試験受験願」を提出し、受験の機会が得られます。学校便覧を熟読しておきましょう。

試験時間に**15分以上遅刻した場合の受験は認められません。**

3）成績

成績評定は、筆記試験の他レポート・実技・平素の学習状況によって行われます。2019年度入学生からは、評定Ｓ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄの５区分で表します。それ以前の 2018 年度以前の入学生は、評定Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄの４区分で表し変更はありません。成績通知は、後期終了時に学生および保護者へ送付します。

６．科目の履修手続き

１）履修科目登録時の留意事項

履修科目の登録に際しては、講義要綱を熟読の上、決定してください。

（１）４月の履修登録期間に前期、後期に履修する科目のすべてを登録します。
（２）クラス指定のある科目は、指定されたクラスの指示に従ってください。
（３）同一時間帯に２科目以上履修することはできません。
（４）指定された提出日に履修登録をしない場合は、当該年度の受講・受験権利を放棄したとみなします。
（５）履修登録科目は、各年次別に配当されている科目で、その年次に開講している科目および学年別配当科目より低学年の配当科目です。

２）履修登録票記入上の留意事項

次の記入上の注意を熟読し、間違いのないように記入し登録を行って下さい。

（１）履修登録は、履修登録票に学籍番号・学生氏名・単位数を記入して提出して下さい。
（ボールペンで記入すること）
（２）必修選択科目、自由履修科目は、各自希望する科目を選択して記入してください。
（３）未履修の科目と当該年次で履修すべき科目とが授業時間割上、同一時限内に重複している場合は、未履修の科目を優先して履修してください。
（４）修得科目で聴講を希望する場合は、記入欄に「聴講」と記入してください。その場合、合計単位数には含みません。
（５）記入した履修登録票は、コピーして原簿を提出し、コピーしたものは各自保管して下さい。
（６）既修得単位の認定は、指定の期日までに必要な手続きを行ってください。また、担当講師の認定が決定されるまで該当の講義は受講してください。

※　聴講の手続きをした科目に必ず出席してください。
※　出席状況によっては、担当講師の判断で聴講を認めない場合があります。

＜令和４年度　１年次生履修科目＞

Ⅰ．基　礎　分　野

必修科目(1)

科目	教 育 学	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	中村 美智太郎

講義の概要および学習目標	1. さまざまな困難をかかえる今日の教育問題を素材として、教育学の基本原理を歴史と思想のふたつの視点から学び、考えを深め、また自らの言葉で説明することができる。 2. 私たちの社会における現在の子ども・おとなをめぐる諸環境について、その起源を探りながら認識を深め、人間を対象とする職業に従事する者として必要な基礎的知識の獲得と基本的資質の形成を図り、自らの言葉で説明することができる。
講義内容	1～4. 人間形成と教育の意味…動物と人間/発達とは/教育とは/教育の逆機能 5～6. 教育の目的・理念(1)…教育目的/「よい」教育目的 7. 中間まとめ 8～10. 教育の目的・理念(2)…「学力」とは/「学力」を高める学習デザイン/学びの動機づけとディスカッションの方法 11～12. 教育思想の展開…古代から近代へ/近代から現代へ 13～14. 現代社会と教育の問題…教員の現状と国際比較/新しい教育方法の可能性 15. 最終まとめ
評価法	定期の筆記試験のほか、課題レポートの提出、出席状況および授業態度等による総合評価で行う。
受講生への要望	講義の内容についての質問や疑問があれば授業中に積極的に発言してほしい。 それができない場合は「質問票」を有効に活用してほしい。 市販の教科書は使用しないで「テキスト資料」を配付するので、それを読んでおくようにしてほしい。
テキスト	書名／著者名／発行所 特に指定しない。
参考文献	書名／著者名／発行所 特に指定しないが、講義内で適宜紹介する。

必修科目（2）

科目	心 理 学	単位	1	時間数	30	開講期	1年後期	担当者	田辺 肇

講義の概要および学習目標	こころのケアや精神保健の領域に限らず、人の体験と行動がどのような過程を経て生じるのか、あるいはその過程にはどのような傾向や法則があるのか、について知ることは、看護実践を進める上で不可欠の知識といえる。 本講義では、人の体験と行動の発生と発達の過程、法則、背景メカニズムや適応的意義など、心理学の基本的な知識の習得を目的とする。
講義内容	1. 心理学における人間理解①心理学とは（心理現象と心理メカニズム、意識と行動） 2. 感覚と知覚 3. 記憶・自己 4. 心理学における人間理解②研究法（共感的理解と客観的理解、理論とモデル、科学とエビデンス、相関と因果、調査と実験） 5. 思考・言語・知能 6. 学習 7. 感情と動機づけ・報酬系 8. 性格とパーソナリティ 9. 社会と集団 10. 発達 11. 心理臨床①（ストレス・アセスメント・精神障害） 12. 心理臨床②（心理療法・危機介入・家族・コミュニティ） 13. 医療・看護と心理 14. 心理学における人間理解③（心理学史：心のモデル） 15. 試験・まとめ
評価法	終了試験（選択肢から選ぶ客観試験）の成績により評価する。
受講生への要望	毎回レスポンスシートの提出を求める。それに応じて授業を展開する。 好奇心をもって積極的に授業に参加して欲しい。
テキスト	書名／著者名／発行所 系統看護学講座　基礎分野　心理学／山村豊ら／医学書院
参考文献	書名／著者名／発行所 新体系看護学全書　専門分野Ⅱ精神看護学①精神看護学概論／精神保健／メヂカルフレンド社 新体系看護学全書　基礎科目　心理学／メヂカルフレンド社 はじめて出会う心理学〔第3版〕／長谷川寿一ら／有斐閣

必修科目(3)

科目	日本語表現	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	武士俣　勝司

講義の概要および学習目標	将来、医療現場で、「いい仕事」をすることを通して、「いい人間」になることを目指して下さい。そのためには、医師、同僚看護師、技術者、そして患者さんとの対話・コミュニケーションが、何よりも大切です。きちんと聞き取ること、伝える事が求められます。会話だけでなく、しっかりとした文書による伝達も求められます。出来るだけ簡潔かつ的確に伝達されなければなりません。そのために用いられる「ことば」の意味と機能を理解しておく必要があります。
講義内容	1. 医療と言葉 2. 言葉の発生と意義 3. 日本語の特性 4、二重言語の演習 5. 日本文化の特性 6. 文章の論理(1) 7. 文章の論理(2) 8. ミニ論文の作成 9. 論文の作成 10. 日本語と敬語法(1) 11. 日本語と敬語法(2) 12. 文章表現法(1) 13. 文章表現法(2) 14. コミュニケーションの方法と文書作成 15. 最終レポート(看護と言葉)
評価法	・毎時間に書く「小レポート」の評価の集積と論文(3回)で評価します。 ・出席状況・授業態度等も評価に加味します。
受講生への要望	・毎時間終了後、講義のまとめ(小レポート:200字程度)を書いて提出してもらいます。その内容を生かして、講義を組み立て、理解を深めていきます。小レポートは、毎時評価して返却します。その評価点の集積で単位認定するので、毎時の授業とレポーに集中して下さい。 ・授業中においては、携帯(電話)の使用は不可とします。
テキスト	書名／著者名／発行所 日本語・理解と表現／竹腰幸夫他／いろは出版
参考文献	書名／著者名／発行所

必修科目(5)

科目	生 物 学	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	森　誠

講義の概要および学習目標	生物学は、これから勉強する専門基礎分野・専門分野のすべての科目を学習するために共通して必要となる基礎科学です。学習目標は、生命を維持・継承するための巧妙なシステムの面白さを理解することにありますが、そのためには、生命現象の原理原則を理解し、専門用語の意味を覚える必要があります。生物学は暗記科目ではありませんが、専門用語の意味を覚えていかないと正しく理解することはできません。本講義では、中学・高校レベルの知識を発展させて、細目毎に学習します。
講義内容	1. 細胞 2. 細胞分裂 3. 遺伝の法則 4. DNAの複製 5. 遺伝情報の発現 6. 遺伝情報の変異 7. 受精 8. 発生 9. 神経 10. 内分泌 11. 免疫 12. 受容器と効果器 13. 進化 14. 生態系 15. 筆記試験
評価法	筆記試験により評価します。 出席状況と理解度の確認を兼ねて、講義中に小テストを行うことがあります。
受講生への要望	
テキスト	書名／著者名／発行所 系統看護学講座　基礎分野「生物学」／高畑雅一他／医学書院
参考文献	

必修科目(6)

科目	情報科学	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	鐵 和弘

講義の概要および学習目標	近年，情報化の波は医療・看護の分野にも及んでいます。そのため、看護の現場でも「情報リテラシー」を持つことが必要となってきており、日々の仕事において医療情報や患者情報の収集・分析・処理を行う能力が求められています。 本講義では、講義のおよそ3分の2をPCと各種ソフト(Word, Excel, PowerPoint)を使った実習に充て、データの処理・分析に関する基礎的な技能の習得を目指します。その後の3分の1程度で、情報科学の基礎的な概念、医療・保健・看護の領域における情報化の事例、看護の現場で発生しうる情報保護等の法的・倫理的諸問題を取り上げ、重要な概念の理解と必要な知識の習得を目指します。
講義内容	1. 本講義のガイダンス:オリエンテーション，実習環境(機器等)の説明 2. 実習① Wordを使った文書処理，図形・オブジェクト操作等 3. 実習② Excelの利用とデータ収集 4. 実習③ Excelを利用したデータの解析 5－7. 実習④ Excelによる統計処理 8－9. 実習⑤ Excelを使ったデータベース操作 10-11. 実習⑥ PowerPointの使い方とプレゼンテーション 12. 情報科学の基礎 13. 医療・看護領域における情報システム利用 14. 情報と倫理 15. 期末試験 (受講生の習熟度等を見た上で，順序や進度を変更することもありえます)
評価法	期末試験(60%)、期中の課題(4回)提出(20%)、出席・受講姿勢等(20%)で評価する予定です。
受講生への要望	15回の授業にただ出席するだけでは、看護に必要となる情報関係の知識・技能を完全に習得することは困難です。したがって、講師がその都度指示する予習・復習と課題作成を確実に行ってください。また、PCによるデータ処理が苦手な人は、積極的に自習で補ってください。
テキスト	書名／著者名／発行所 系統看護学講座別巻 『看護情報学』／中山・瀬戸山他／医学書院 ※USBメモリ(学校専用)を使用するので持参してください。
参考文献	書名／著者名／発行所 1)『エッセンシャル看護情報学』／太田・前田編著／医歯薬出版 2)『看護・医療系のための情報科学入門』／椎橋・有田／サイオ出版

必修選択科目（7-1）

科目	健康とスポーツ ストレッチング	単位	1	時間数	30	開講期	1年 後期	担当者	鈴木　しげこ

講義の概要および学習目標	健康（ヘルス）と、体力（フィットネス）の在り方を、体験し理解します。 単にキツイ・辛い運動ではなく、生涯に渡って楽しめる個人の体力差や嗜好性を考慮したストレッチ手法や、エンターテイメント性の高い様々なスタイルの運動を経験します。グループディスカッションで、仲間と交流しながら想像力を高め、人に寄り添う能力を養います。著名な運動指導者ピラティスが、世界一次大戦中に看護師をしながら運動も指導していたように、講義と実践を通じて健康観を高めます。
講義内容	1. ストレッチとは　効果と原理　自信が付くPNFストレッチ 2. アクティブストレッチ①　股関節（下肢） 3. アクティブストレッチ②　肩関節（上肢） 4. エンターテイメント　リズミックストレッチ①（Halloween編） 5. アクティブストレッチ③　体幹部 6. アクティブストレッチ　　まとめ 7. スタティクスストレッチとSMR①（頸部と腰） 8. スタティクスストレッチとSMR②（頸部と腰） 9. リズミックストレッチ②（Christmas編） 10. リズミックストレッチ③（Christmas編）　グループテスト 11. 身体と心と呼吸を繋ぐ①（ヨガとは？ピラティスとは？） 12. 身体と心と呼吸を繋ぐ②（呼吸の原理） 13. 身体と心と呼吸を繋ぐ③（バランスとプロプリオセプティブ固有受容感覚） 14. 身体と心と呼吸を繋ぐ④（総合的ストレッチの実際） 15. 全体を通してのまとめ　パーソナルテスト
評価法	授業態度と理解力・出席状況等による総合評価 特に休まないことは、自己の健康管理が充分なされていることで、高く評価される。
受講生への要望	＜持ち物＞　筆記用具とタオルor手ぬぐい ＜服　装＞　運動のできる服装(Gパン不可)、裸足 ＜当　番＞　鍵開け・デッキ準備・出欠席確認・忘れ物管理・消灯確認と施錠 ・フィジカル(肉体)な出来栄えより、積極的なアチチュード(受講態度)を高く評価します。 ・欠席・遅刻は止むを得ないケースを除き、大きく評価に影響します。 ・体調不良の欠席は、健康管理不十分として評価に影響します。座学受講可能な場合は欠席せず見学を勧めます。
テキスト	書名／著者名／発行所 使用しない
参考文献	書名／著者名／発行所 解剖生理学　人体の構造と機能①　／　酒井建夫、岡田隆夫　／　医学書院

必修選択科目(7-2)

科目	健康とスポーツ 球技・生活と レクリエーション	単位	1	時間数	30	開講期	1年 後期	担当者	井上　真達

講義の概要および学習目標	「運動をする」・「体を動かす」ということは、人間の行動様式で「生きて行く」為の最低条件となる。私たちが生涯に渡って「健康」であるためには、若いうちに基礎体力を十分に付け、毎日の生活の中でも習慣的に運動を取り入れていく必要がある。人間は二十歳を境に筋肉の老化が始まり、また、仕事に就いたり、年齢が高くなるにつれ、運動不足になりやすく、自分の気付かない所で、年々身体能力が低下してしまう。 この「健康とスポーツ」では、そういった日頃の運動不足を解消し、身体の健康や体力の回復・向上・維持・増進をねらいとし、積極的に身体を動かすことで汗をかき、新陳代謝を活発にすると共に、心身に感じるストレスを解消させることを目的とする。また、身近な運動を通じて「身体を動かす」ことの楽しさや爽快さを知り、「生涯スポーツ」に繋がる位置付けをする。
講義内容	1時限　：オリエンテーション(授業内容の説明・・・健康とは何か？運動の必要性、評価法等) ＊以後の種目については、履修者の人数により変更する場合がある。 2～6時限　：テニス(基本練習から行い、初心者でもラリーが続くよう指導する。) 7～9時限　：ポートボール(ゲーム) 10～12時限　：ユニホック(練習・ゲーム) 13～15時限　：フットサル(ゲーム) ＊雨天の場合は、屋内にて、スポーツマッサージ等を取り入れながら、骨格系や筋肉系の講義を行う予定。
評価法	出席状況重視　(健康管理)、授業態度(取り組む姿勢等)による総合評価 運動能力等は一切問わない。
受講生への要望	運動に適した服装(ジャージ上下等)、運動靴(外用)、を用意すること。 見学、欠席をせず、楽しく積極的に身体を動かし、意欲的に授業へ取り組む。 ※詳しいことは、オリエンテーションにて説明する。
テキスト	書名／著者名／発行所 使用しない
参考文献	書名／著者名／発行所 使用しない

必修科目(10)

科目	暮らしと健康	単位	1	時間数	20	開講期	1年後期	担当者	牧野 陽子

講義の概要および学習目標	自立した生活者としての社会で生活していくために必要な基礎的な、家族関係、食生活、衣生活、住生活、社会通念としての一般常識を学習することを目的とします。
講義内容	1. 家庭生活の経営と管理‥家族とは. 家族の機能. 経営 2. 衣生活‥衣服の役割と機能. TPOと衣服選択. 管理 3. 食生活‥食とは. 食生活の変遷. 健康と栄養. 環境と食 4. 住生活‥日本の住居の変遷. 住まいの機能. 生活と住まい 一般常識‥社会での常識. 通過儀礼
評価法	出席状況、授業態度、課題提出等による総合評価で行う。
受講生への要望	
テキスト	書名／著者名／発行所 福祉ライブラリ生活支援の家政学／井上千津子他編著／建帛社
参考文献	書名／著者名／発行所 1)「辰巳芳子のことことふっくらまめ料理」／ 辰巳芳子／農文協 2)「あなたのためにーいのちを支えるスープ」 ／ 辰巳芳子／文化出版局 3)「窓を開けなくなった日本人ー住まい方の変化六〇年」／渡辺光雄／農山漁村文化協会

必修選択科目(11－1)

科目	外国語会話 英会話	単位	1	時間数	30	開講期	1年 前期	担当者	Bruce Cunningham

講義の概要および学習目標	・英会話の基本文法の習得 ・日常会話における単語学習 ・リスニング習得 ・英語での問答
講義内容	・自己紹介 ・形容詞を使った説明文 ・名詞と副詞の使い方 ・前置詞の使い方 ・道案内 ・動詞の変化　過去　過去分詞
評価法	スピーキングテスト　説明能力 質問文作成能力　質問の答え方
受講生への要望	積極的にクラスに参加し会話する。 授業に集中し楽しくクラスに参加する。
テキスト	書名／著者名／発行所 Speaking of Nursing／Peter Vincent , Alan Meadows／南雲堂
参考文献	書名／著者名／発行所

必修選択科目(11－2)

科目	外国語会話 英会話	単位	1	時間数	30	開講期	1年 前期	担当者	Bingol,Deniz,Tekin

講義の概要および学習目標	・日常英会話の場面・文化・生活に使われる英語を理解する。 ・看護場面で活用する英会話を体験的に学ぶ。 ・人間関係を築くための英会話
講義内容	・自己紹介(家族の説明) ・グローバル社会において、国際共通語の英語を通し、コミュニケーションをスムーズに行う。 ・日常英会話の場面において、文化・生活(あいづち、口調・・・言い回し)を身につけ、 自分の意見を言えるようにする。
評価法	スピーキングテスト　　授業態度 オーラルコミュニケーション 質問の答え方
受講生への要望	授業内容を理解し質問に返答する。 授業に恥ずかしがらずに積極的に参加する。 楽しく英会話ができるようになってほしい。
テキスト	書名／著者名／発行所 Speaking of Nursing／Peter Vincent , Alan Meadows／南雲堂
参考文献	書名／著者名／発行所

必修選択科目(11－3)

科目	外国語会話 中国語会話	単位	1	時間数	30	開講期	1年 前期	担当者	趙 湘紅

講義の概要および学習目標	簡単な中国語会話の勉強を通じて、中国の文化、風土、地理などを学ぶ。
講義内容	1. 2. 3.　発音の基本の紹介 4. 5. 6.　あいさつ、自己紹介、時刻の言い方 7. 8.　動詞、形容詞の述語文の使い方 9. 10.　疑問文、否定文などの使い方 11～14.　日常会話場面練習 15.　テスト
評価法	会話練習中心の授業なので、日常の出席状況を重視する。 期末筆記試験のほか、出席状況、授業態度等による総合評価で行う。
受講生への要望	遅刻せず、休まず出席すること。 授業中積極的に会話に参加すること。 時間外に自習を行い、練習時間不足を補ったほうが良い。
テキスト	書名／著者名／発行所 1)「発音の基礎から日常会話まで学べるはじめての中国語」／野村邦近／ナツメ社 2)「デイリーコンサイス　中日・日中辞典」／杉本達夫・牧野英二／ 三省堂 古屋昭弘[共編] *2)については、学校所有の辞書を使用するため、個人で購入する必要はありません
参考文献	書名／著者名／発行所

必修科目(14)

科目	ピア・サポート論	単位	1	時間数	15	開講期	1年前期	担当者	山口　権治

講義の概要および学習目標	ピア・サポート、カウンセリングの基礎及び技法を学習します。体験学習の過程で、ピア・サポート、構成的エンカウンター、ソーシャルスキルなどを通じて、人間理解と他者支援の実践的な態度の養成を図ります。ロールプレイでは、振り返りにより実習の深まりを評価検討します。 ≪学習目標≫ 1　ワークを通じて自己理解、他者理解、相互理解を深め良好な人間関係を構築する 2　傾聴・アサーショントレーニング通じて対人援助の基本スキルを習得する 3　問題解決スキル、対立解消スキルを学び他者を支援する実践力を習得する
講義内容	1. オリエンテーション・人間関係づくり 2. 双方向でコミュニケーションが成り立つことに気づく、上手な伝え方を学ぶ 3. くり返しの技法と要約の技法を学ぶ 4. 上手な頼み方・断り方、アイメッセージで自分の気持ちを伝えることができるようにする 5. 視覚・聴覚・身体覚入力チャンネルを合わせることで信頼関係を築くことを学ぶ 6. 傾聴技法、質問技法、ブレインストーミングを活用して問題解決スキルを学ぶ 7. 傾聴技法を使って対立の解消の仕方を学ぶ 8. エゴグラムシートを使い自分の心の癖を知る・感情コントロールの方法を学ぶ
評価法	レポート、授業態度、出欠席など総合的に評価します。
受講生への要望	小講義と実習の形で授業が進みます。特に、演習が多いので、体調を整えて意欲をもって授業に参加してください。
テキスト	書名／著者名／発行所 ピア・サポートを生かした学級づくりプログラム／山口権治／明治図書
参考文献	書名／著者名／発行所 不登校いじめを起こさない集団づくりーピア・サポートに学ぶー／山口権治／ 公益財団法人　モラロジー研究所

＜令和４年度　１年次生履修科目＞

Ⅱ. 専　門　基　礎　分　野

「解剖生理学」　　使用テキスト・参考文献　一覧

科目		担当者	テキスト	参考文献
解剖生理学Ⅰ	皮膚感覚 体温と調節	森木　睦	系統看護学講座　専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
	眼の構造と視覚	櫻井 美晴	系統看護学講座　　医学書院 1）専門基礎分野「解剖生理学」 2）専門分野Ⅱ　「眼」	
	聴・平衡・嗅覚 咽喉	池上　聰	系統看護学講座　専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
	神経系	米澤 慎悟	系統看護学講座　専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
	骨格と筋肉	杉山 義晴	系統看護学講座　専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
解剖生理学Ⅱ	呼吸器、呼吸	佐野 武尚	系統看護学講座　専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
	血液循環と その調節	服部 雄介	系統看護学講座　専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
	血液と 生体防御機構	前田 明則 岩井 一也	系統看護学講座　専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
	腎臓・体液の調節	松本 芳博	系統看護学講座　専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
解剖生理学Ⅲ	口の構造と機能	大山 厳雄	系統看護学講座　　医学書院 1）専門基礎分野「解剖生理学」 2）専門分野Ⅱ　「歯・口腔」	
	消化器 消化、吸収 栄養、代謝	黒石 健吾	系統看護学講座　専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
	自律神経、内分泌 ホルモン分泌調節	清水 洋佑	系統看護学講座　専門基礎分野 1）「解剖生理学」 医学書院 2）専門分野Ⅱ　「内分泌・代謝」	
	女性生殖器 受精と発生	水野 薫子	系統看護学講座　専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
	男性生殖器 生殖機能、 排尿器、排尿	藤川 祥平	系統看護学講座　専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	

必修科目(1)

科目	解剖生理学Ⅰ	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	医師: 森木　睦 ・櫻井　美晴 池上　聰 ・米澤　慎悟 杉山　義晴

講義の概要および学習目標	皮膚の構造とその機能を理解する。 眼球及び視路の構造と機能を学ぶ。 耳、鼻、口腔、咽頭、頸部の構造と機能を学ぶ。 解剖の理解により疾患、症状を理解する。 めまい検査の実施。 神経系の解剖に関する知識を習得する。 神経系の形態と機能について理解を深める。 Ａ：　神経系とはどのようなものか　　Ｂ：　脊髄 Ｃ：　脳　　Ｄ：　脊髄神経　Ｅ：脳神経 Ｆ：自律神経系　　Ｇ：伝導路 人体の構造と機能についての知識を得、理解を深める。
講義内容	◎<u>皮膚感覚・体温と調節 (2時間)　担当:森木　睦</u> ・皮膚の構造と機能 ◎<u>目の構造と視覚 (2時間)　担当:櫻井　美晴</u> ・眼瞼、涙器、結膜、角膜、虹彩、水晶体、硝子体、網膜、神経系の構造 ・上記の機能 ◎<u>聴覚・平衡覚、嗅覚・味覚 (4時間) 担当:池上　聰</u> ・耳、鼻の解剖生理 ・口腔、咽頭の解剖生理 ・頸部の解剖生理 ◎<u>神経性調節 (14時間) 担当:米澤　慎悟</u> ・神経細胞と支持細胞、ニューロンでの興奮伝達、シナプスでの興奮伝達 神経系の構造　　・脳室と髄膜、脳脊髄液 ・脳(大脳、間脳、小脳、脳幹) ・脊髄(脊髄の構造、脊髄の機能)、脳神経 ・脳神経、脳の高次機能 ・情動運動、自律神経、中枢神経系の障害、伝導路、脳ヘルニア ◎<u>運動系 (8時間) 担当:杉山　義晴</u> ・構造と機能からみた人体　　・骨格・骨の連結・骨格筋 ・体幹の骨格と筋　　・上肢の骨格と筋　　・下肢の骨格と筋 ・頭頸部の骨格と筋　　・筋の収縮
評価法	出席状況および筆記試験
受講生への要望	休まず出席すること。 講義をしっかり聞いて欲しい。 講義時間内に全てを講義する時間的余裕はないので、教科書に一度は目を通すこと。 新しい用語、専門用語が多く全てを覚えることは難しいが、講義中頻回に出る言葉は 十分理解すること。

必修科目(2)

科目	解剖生理学Ⅱ	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	医師: 佐野 武尚 ・服部 雄介 前田 明則 ・岩井 一也 松本 芳博

講義の概要および学習目標	呼吸は生命を維持するのに最も基本的な行為の一つであり、意識下でもコントロールでき、無意識下でも維持、調節されている。まずはその重要な呼吸を司る臓器のしくみと解剖を理解すること。 そして、肺の生理的機能と、どのようにそれを利用し調節、活用しているのかを基本的な事象ごとに理解していくことを主目標とする。さらには代表的な肺疾患を通して、臓器の障害や機能異常がどのように自覚症状や他覚所見につながっていくか理解を深めていく。 循環器系の解剖と生理の最低限の知識を身につける。 苦手意識を持たずに学習する。 血液疾患の病態生理、診断法、治療法、患者の看護に役立つ血液や免疫、及びその周辺に位置する輸血学の基礎知識を習得する。 ヒトの体の60%を占めている水分について、そのバランスのくずれと病気との関係を理解する。 血漿中の主な電解質(NaとK)の濃度調節の重要性を理解する。
講義内容	◎呼吸器・呼吸 (10時間) 担当:佐野 武尚 A 呼吸器の構造 ①呼吸器の構造 ②上気道 ③下気道と肺 ④胸膜・縦隔 B 呼吸 ①内呼吸と外呼吸 ②呼吸器と呼吸運動 ③呼吸器量 ④ガス交換とガスの運搬 ⑤肺の循環と血流 ⑥呼吸運動の調節 ⑦呼吸器系の病態生理 ◎血液循環とその調節 (12時間) 担当:服部 雄介 ・心臓の解剖, 構造 ・心臓の生理 ・末梢循環の構造 ・血液循環とその調節 ◎血液と生体防御機構(6時間) 担当:前田 明則・岩井 一也 ・ 血液の構造、赤血球、血小板、好酸球、リンパ球の機能 ・ 輸血(赤血球輸血、血小板輸血、血液型、輸血の副作用、Rh型、不適合輸血、緊急時の輸血、交差適合試験) ・ 免疫(液性免疫、細胞性免疫、免疫不全) ・ HIV感染症とエイズ ・ 血栓と止血(血液凝固カスケード、血友病) ・ 造血幹細胞移植(自家末梢血幹細胞移植、血縁者間骨髄移植、骨髄バンク、非血縁者間骨髄移植、臍帯血移植) ◎腎・泌尿器 体液の調整 (2時間) 担当:松本 芳博 ・水分バランスのくずれと病気との関係 ・血漿中の電解質の濃度調節
評価法	・出席状況、授業態度を重視する。 特に授業中の質問に対しての返答の姿勢(正解の有無は問わず)。 ・疑問点を発する能力・討論する能力・人の話を正確に理解する能力。 ・筆記試験
受講生への要望	・遅刻せず、休まず出席すること。 ・解らないところは積極的に質問すること。 ・居眠り厳禁。 ・何にでも参加して勉強しよう。 ・「?」と「!」を自分で探そう。思ったことはその場で言おう。 ・あらかじめ、テキストを通読しておくことが望ましい。

必修科目(3)

科目	解剖生理学Ⅲ	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	医師:大山 厳雄・黒石 健吾 清水 洋佑・水野 薫子 藤川 祥平

講義の概要および学習目標	口腔・咽頭・食道各々構造と機能について学ぶ。 消化器系の器官の一つとして口腔・咽頭・食道機能と構造を理解し、他の消化器系の器官との関連を考えながら機能を学ぶ。 消化器系の構造と機能について学ぶ。 ホメオスタシスとこれを維持する自律神経系、内分泌系の機能を理解する。 ホルモンの分泌・調整と機能亢進・低下が人体に与える影響について理解する。 女性生殖器の解剖と生理学を理解する。 受精～胎児の発生について学ぶ。 腎泌尿器系の構造と機能を学ぶ。 医療現場で仕事をするうえで最低必要な泌尿器科の基礎知識を身につける。
講義内容	◎口の構造と機能 (2時間) 担当:大山 厳雄 ・口腔の構造と機能 ・咽頭と食道の構造と機能 ◎消化器系 (10時間) 担当:黒石 健吾 ・食道、胃、小腸、大腸、肝、胆、膵、腹膜の解剖と生理 ・蛋白質、脂肪、炭水化物の代謝 ◎自律神経、内分泌、ホルモン分泌調節 (10時間) 担当:清水 洋佑 ・ホメオスタシス 自律神経と内分泌総論 ・甲状腺、副甲状腺、膵臓 ・副腎、性腺、内分泌以外のホルモン ・視床下部ー下垂体系 ・ホルモン分泌調節 ◎生殖器系・人体の発生 (4時間) 担当:水野 薫子 ・女性生殖器の解剖 ・月経周期と性ホルモン調節 ・受精過程と胎児の発生・分化 ◎男性生殖器、生殖機能、排尿器、排尿 (4時間) 担当:藤川 祥平 ・泌尿器科関係の解剖生理 ・尿路、性器の先天異常
評価法	出席状況・聴講の態度・筆記試験
受講生への要望	遅刻せず、休まず出席すること。 予習を行い、質問等があれば講義の中で質問して欲しい。

必修科目(4)

科目	看護のための人間論	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	看護師:赤堀 美智子 脇田 由紀子・山口 一世 中村 泉

講義の概要および学習目標	看護は対象の生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えることである。つまり、対象に起きている生命力を消耗させている事実に注目し、その事実と生活のあり方を重ねる。そうすることで、看護の力をどこに注げば対象が健康のよい状態に向かうのか判断し実践できる。看護を行うためには、対象への看護の必要性が浮かび上がるような人間のみつめ方を習得する必要がある。 この科目では、看護の対象である人間の健康のよい状態に注目する。健康のよい状態で生活する人間本来の姿を描きながら、人間の身体と24時間繰り返される生活のあり方を看護の視点でみつめ、どのように繋がっているのか解いていく。 《学習目標》 1 人間が健康のよい状態であるとはどういうことか明らかにする 2 人間が健康のよい状態を保つためには、どのような生活をすればよいのか看護の視点で考える
講義内容	1. 看護のための人間論 健康のよい状態とは(講義) 2～4. 人間の生命力(代謝)(講義) 恒常性の維持(内部環境)と細胞の代謝を維持する生活(GW) 5. 生命誕生(講義) 6～8. 胸部(生命の源)にある器官の働きと生活(GW) 9～11. 口腔から肛門まで(食と排泄)にある器官の働きと生活(GW) 12～14. 腹部(内部環境の働き)にある器官の働きと生活(GW) 15. まとめ テーマ「人間が健康のよい状態であるためには、どのような生活をすればよいか」
評価法	グループワークの参加状況、グループワークの成果物、個人レポートを総合して評価します
受講生への要望	この科目は、グループワークを行い人間の生活について考えていきます。既習の解剖生理学の知識を活用しながら、どのように生活すれば健康のよい状態に向かうのか主体的にみつめてください。また、自らの生活を振り返り、自己の健康のよい状態を保つための生活についても考えてみてください。
テキスト	書名／著者名／発行所 ナースが視る人体 ／ 薄井 坦子 ／ 講談社 ナースが視る病気 ／ 薄井 坦子 ／講談社 看護覚え書 ／ フロレンス・ナインチンゲール, 訳 湯槙 ます他 ／ 現代社
参考文献	書名／著者名／発行所 解剖生理学 人体の構造と機能①／坂井 建雄, 岡田 隆夫／医学書院 看護の生理学(1)(2)(3)人間をみる看護の視点／薄井 坦子, 瀬江 千史／現代社 看護 形態機能学／菱沼典子／日本看護協会出版会 看護学生、宇宙を学ぶ／小河一敏／アノック

必修科目(6)

科目	病理学	単位	1	時間数	20	開講期	1年後期	担当者	医師：森木　利昭

講義の概要および学習目標	病理学を通して疾患の形態学的な変化を学び、基本的な病気を理解することを目標とする。
講義内容	1. 病理検査法 2. 病理学総論 3. 病理学各論：主要な疾患 4. その他
評価法	筆記試験で評価するが、出席状況、授業態度も考慮する。
受講生への要望	講義内容を教科書・配布資料で復習してください。 医療現場における病理の仕事を身近に感じてほしい。
テキスト	書名／著者名／発行所 系統看護学講座　専門基礎分野「病理学」／ 医学書院
参考文献	書名／著者名／発行所

「病態生理と治療」 使用テキスト・参考文献　一覧

◆ 病態生理と治療Ⅰ

科目	担当者	テキスト ： 書名 ・ 著者 ・ 発行所	参考文献：書名・著者 発行所
皮膚疾患	森木 睦	1） 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「皮膚」 医学書院	1） 病気がみえる Vol. 14 『皮膚科』 第1版 MEDIC MEDIA
耳鼻咽喉疾患	池上 聰	1） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「耳鼻咽喉」 医学書院	1）「よくわかる嚥下障害」 藤島一郎　永井書店 2） 病気がみえる Vol. 13 『耳鼻咽喉科』 第1版 MEDIC MEDIA
眼疾患	櫻井 美晴	1） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「眼」 医学書院	1） 病気がみえる Vol. 12 『眼科』 第1版 MEDIC MEDIA
脳神経疾患	原 秀	1） 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「脳・神経」 医学書院	1） 病気がみえる Vol. 7 『脳・神経』 第2版 MEDIC MEDIA
運動器疾患	素村 健司	1） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「運動器」 医学書院	1）「看護のための最新医学講座 第18巻　運動器疾患」 中村利孝　中山書店 2）「カラー写真で見る骨折・ 脱臼・捻挫」 内田淳生　羊土社 3） 病気がみえる Vol. 11 『運動器・整形外科』 第1版 MEDIC MEDIA

◆ 病態生理と治療Ⅱ

科目	担当者	テキスト ： 書名 ・ 著者 ・ 発行所	参考文献：書名・著者・発行所
血液造血器疾患 膠原病 アレルギー疾患	前田 明則 岩井 一也	1） 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「アレルギー・膠原病・感染症」 医学書院 3） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「血液・造血器」 医学書院	1） 病気がみえる Vol. 5 『血液』 第2版 MEDIC MEDIA 1） 病気がみえる Vol. 6 『免疫・膠原病・感染症』 第2版 MEDIC MEDIA
循環器疾患	杉山 博文	1） 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「循環器」 医学書院	1） 病気がみえる Vol. 2 『循環器』 第5版 MEDIC MEDIA
呼吸器疾患	山田 孝	1） 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「呼吸器」 医学書院	1） 病気がみえる Vol. 4 『呼吸器』 第3版 MEDIC MEDIA

◆ 病態生理と治療Ⅲ

科目	担当者	テキスト ： 書名 ・ 著者 ・ 発行所	参考文献:書名・著者・発行所
口腔疾患	大山 厳雄	1） 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「歯・口腔」 医学書院	
消化器疾患	濱村 啓介	1） 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「消化器」 医学書院	1） 病気がみえる Vol. 1 『消化器』 第6版 MEDIC MEDIA
内分泌疾患		1） 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「内分泌・代謝」 医学書院	1） 病気がみえる Vol. 3 『糖尿病・代謝・内分泌』 第5版 MEDIC MEDIA
腎・泌尿器疾患	八木橋祐亮	1） 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「腎・泌尿器」 医学書院	1） 病気がみえる Vol. 8 『腎・泌尿器』 第3版 MEDIC MEDIA

必修科目(7)

科目	病態生理と治療Ⅰ	単位	1	時間数	30	開講期	1年後期	担当者	医師：森木 睦・池上 聰 櫻井 美晴・原 秀 素村 健司

講義の概要および学習目標	代表的な皮膚疾患の病態生理と治療法について学ぶ。 代表的な耳鼻咽喉科疾患の病態生理と治療法について学ぶ。 眼科的疾患とその治療法・治療に際しての看護のポイントを学ぶ。 基本的脳疾患の理解。 器官の機能上の特徴と、疾患によって生じる機能障害、運動障害、および派生する身体的、心理・社会的な問題点をふまえ、看護を行う際の心得、要領ならびに援助の内容・方法を学習する。
講義内容	◎皮膚疾患 (4時間)　担当:森木 睦 ・代表的な皮膚疾患の病態と治療法 ◎耳鼻咽喉疾患 (4時間)　担当:池上 聰 ・耳鼻咽喉の解剖の復習と耳鼻咽喉疾患の理解 ◎眼疾患 (2時間)　担当:櫻井 美晴 ・眼瞼の炎症性疾患、白内障、緑内障、網膜剥離といった代表的疾患を中心とした疾患概念、治療法、看護のポイント ◎脳・神経疾患 (12時間)　担当:原 秀 ・基本的脳疾患の理解とその治療法 ◎運動系疾患 (8時間)　担当:素村 健司 ・骨折と骨粗鬆症 ・変形性関節症、関節リウマチ ・骨髄炎、骨腫瘍、下肢切断 ・脊髄損傷、腰椎椎間板ヘルニア
評価法	出席状況・聴講の態度・筆記試験
受講生への要望	休まず出席すること。 講義内容が試験に出ます。講義をしっかり聴いてほしい。 予習を行い、質問等があれば講義の中で質問して欲しい。

必修科目(8)

科目	病態生理と治療Ⅱ	単位	1	時間数	30	開講期	1年後期	担当者	医師:前田 明則・岩井 一也 杉山 博文・山田 孝

講義の概要および学習目標	一般に疾患頻度が少なく、分類が複雑なために、難解とされ、敬遠されやすい血液疾患、免疫疾患の病態生理を系統的にシンプルに理解することを目標とする。基礎がしっかりと理解されると、診断・治療さらには看護の重要ポイントをたいかんすることが可能となる。 循環器系疾患の病態生理及び治療に対する理解。 疾患については総論、各論方式で説明。 説明においては全体像が頭の中にイメージできるように流れ図的に説明。 具体項目は形態(解剖)と対比しつつ、気道疾患、感染症、肉芽腫性疾患、肺間質疾患 肺腫瘍、胸膜疾患、肺循環障害などが主な項目となる。
講義内容	◎<u>血液造血疾患、膠原病、アレルギー疾患 (8時間) 担当:前田 明則・岩井 一也</u> ・貧血の分類、貧血の鑑別診断 ・鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血の病態生理、診断と治療 ・再生不良性貧血 ・骨髄異形成症候群 ・溶血性貧血(自己免疫性溶血性貧血、球状赤血球症) ・急性白血病(急性骨髄球性白血病、急性リンパ性白血病)、 ・慢性骨髄性白血病とフィラデルティア染色体、イマチニブの効果 ・悪性リンパ腫の分類と治療 ・血栓と止血(血小板減少性紫斑病、播腫性血管内凝固症候群の診断と治療) ・Coombsによるアレルギーの分類 ・自己免疫疾患の定義 ・代表的膠原病である全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、シェーグレン症候群の病態生理と臨床症状 ・骨髄穿刺&生検の適応と手技 ・化学療法を受けている患者の看護 ◎<u>循環器疾患 (8時間) 担当:杉山 博文</u> 1. 虚血性心疾患 2. 心不全 心筋症 大動脈疾患 3. 不整脈とBLS 4. 先天性心疾患と弁膜症 ◎<u>呼吸器疾患 (14時間) 担当:山田 孝</u> 1. 勉強するとは何であるか 2. 呼吸器疾患について 3. 総論、各論に分けて説明 4. 主要疾患のイメージを伝える・・・疾患の原因、病態、症状、検査、診断、治療 最後にどうなるかまでを一連の流れの中でとらえてもらう 5. 国家試験対策 6. ロールプレイ(時間配分に余裕ある場合)
評価法	出席状況・授業態度・筆記試験
受講生への要望	あらかじめ、テキストを通読しておくことが望ましい。 基本的なことはテキストで予習してきて下さい。 復習をしっかりやってください。

必修科目(9)

科目	病態生理と治療Ⅲ	単位	1	時間数	30	開講期	1年後期	担当者	医師:大山 厳雄・濱村 啓介 八木橋祐亮・内分泌科医師

講義の概要および学習目標	・歯・口腔の症状と病態生理 ・歯・口腔疾患の治療と検査・処置 ・解剖生理学と関連させ、歯、口腔に健康障害を生じたときの、病態生理、治療・検査・処置を学ぶ。また疾患の病態を理解し消化器機能への影響も考える。 ・消化器の病態生理とその治療法を学ぶ。 ・内分泌・代謝疾患:疾患の特性、検査や治療の組み立ての概要を学び理解し、患者にもっとも近い存在として、チーム医療の中での診療の中核的役割を担い、また、いわゆる生活習慣病などにおいて適切な生活指導をすることができる。 ・医療現場で仕事をするうえで最低限必要な泌尿器科の基礎知識を身につける。
講義内容	◎口腔疾患 (4時間) 担当:大山 厳雄 ・歯・口腔の症状と病態生理 ・歯・口腔疾患の治療と検査・処置 ◎消化器疾患 (10時間) 担当:濱村 啓介 ・食道～胃～小腸～大腸の疾患と治療 ・肝・胆・膵の疾患と治療 ◎内分泌・代謝疾患 (8時間) 担当: ・代謝疾患(糖尿病、高脂血症、痛風、肥満)の疾患の理解、検査、治療法 ◎腎・泌尿器疾患 (8時間) 担当: 八木橋祐亮 ・泌尿器科関係の検査 ・尿路感染症 ・尿路性器の腫瘍 ・尿路結石症 ・その他
評価法	出席状況および筆記試験
受講生への要望	休まず出席すること。 糖尿病は国民病とも言えるほど増加しています。 自分自身も疾患を発症しやすい体質を持っていると思って学習してください。 医療は常に技術が進歩している。教科書に記載されたときにはすでに古い情報となっていることも多い。講義ではできるだけ新しい内容を話すつもりです。 講義を中心に勉強していただきたい。

必修科目(12)

科目	看護のための疾病論	単位	1	時間数	30	開講期	1年後期	担当者	看護師:松永　貴子 矢野　玲枝・杉山　加苗 松永しのぶ・松本　理恵

講義の概要および学習目標	看護することにつながる病気のとらえ方ができるようにするための科目である。健康のよい状態から病気への変化のプロセスの理解を深め、対象のどのような生活が、健康状態の変化を作り出したのかを理解する。さらに、生活との関連において観察し、生命力を脅かすものを発見して、生活過程をととのえる方向性を見出せるような病気のとらえ方を習得する。 《学習目標》 1　看護する立場から、病気のみつめ方を習得する 2　対象がどのように生活すればよりよく生きていくことができるか判断できる
講義内容	・看護のための疾病論　　(講義) 　病気は健康の法則に反した結果 　健康は細胞の健康度に左右される 　毒され群の病気・衰え群の病気・相互影響群の病気 ・毒され群の病気　(講義・グループワーク) ・衰え群の病気(グループワーク) ・毒されよりの相互影響群の病気(がん)(グループワーク) ・衰えよりの相互影響群の病気(2型糖尿病)(グループワーク)
評価法	グループワークの参加状況、グループワークの成果物、個人レポート、筆記試験
受講生への要望	既習の知識を活用できるようにするため、復習・予習してください。
テキスト	書名／著者名／発行所 　ナースが視る人体／薄井　坦子／講談社 　ナースが視る病気／薄井　坦子／講談社
参考文献	書名／著者名／発行所 系統看護学講座　解剖生理学／医学書院 系統看護学講座　腎・泌尿器／医学書院 系統看護学講座　消化器／医学書院 系統看護学講座　内分泌・代謝／医学書院

必修科目(14)

科目	薬理学	単位	1	時間数	30	開講期	1年後期	担当者	池田　雅彦

講義の概要および学習目標	現在、病気に対し様々な薬が使われている。また新しい薬も次々と開発されている。これらの薬は、使い方次第では、病気に対し有効に作用するどころか、逆に毒性を示すことがある。 薬理学ではこれらの薬を使用したとき、からだの中でどのような作用、あるいは副作用を及ぼすか、またある効果を期待するとき、どのような作用の薬を使用すればよいのかについて学び、薬に対する基礎知識を養う。
講義内容	薬理学総論 薬理学各論(抗感染症薬、抗がん薬、免疫治療薬、抗アレルギー薬・抗炎症薬、末梢での神経活動に作用する薬物、中枢神経系に作用する薬物、心臓・血管系に作用する薬物、呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物、物質代謝に作用する薬物)
評価法	中間試験を3回に分けて行い、その平均点で評価する。
受講生への要望	薬理学を学ぶには、生化学、解剖生理学などの知識が必要になるので、これらも合わせて学ぶことが大切である。身近な薬に興味を持ち、たとえば病院で薬を処方されたらすぐ一般名、薬効、作用機作など調べる姿勢が欲しい。
テキスト	書名／著者名／発行所 系統看護学講座　専門基礎分野　「薬理学」／吉岡　充弘 他／医学書院
参考文献	書名／著者名／発行所 1)「NEW薬理学」／田中　千賀子・加藤　隆一／南江堂 2)「カッツング薬理学」／Bertram. G. Katzung他／丸善 3)「治療薬マニュアル」／北原　光夫／医学書院 4)「臨床で役立つ薬の知識」／折井　孝男／Gakken

必修科目(17)

科目	保健医療論	単位	1	時間数	15	開講期	1年前期	担当者	医師:縄田隆三

講義の概要および学習目標	現代の医療の制度とそれに伴う問題について知識を得る。
講義内容	1. 疾病とは何か　治療とは何か 2. 現代日本の社会保障、医療保険 3. 日本の医療の現状と国民の意識 4. 日本の医療の問題点 5. 医療者の役割 6. 医療安全 7. 医の倫理
評価法	筆記試験と出席
受講生への要望	現在の医療制度で、まだ結論の出ていない問題が多くあることを認識する。医療者であることを自覚する。
テキスト	書名／著者名／発行所 医療概論／康永秀生／医学書院 総合医療論／小泉俊三ほか／医学書院
参考文献	書名/著者名/発行所

必修科目(19)

科目	社会福祉論Ⅰ	単位	1	時間数	15	開講期	1年後期	担当者	東野定律 木村 綾 天野ゆかり

講義の概要および学習目標	目標 我が国における社会福祉、社会保障のしくみや特徴について基礎的な知識を習得する。また、少子高齢化、人口減少社会などの社会構造の中において、多様かつ複雑な健康ニーズ、生活ニーズをもつ対象者に対しての社会保障制度の役割について理解する。 概要 社会福祉の基礎的な知識を習得するために、社会保障のしくみや関連する制度や支援のあり方等について解説する。少子高齢化、貧困、社会保障財源のひっ迫など社会が抱える様々な課題を提示しながら、看護職に求められる視点や役割について考察する。
講義内容	1. 社会保障と社会福祉　※年金制度と雇用保険制度を含む 2. 医療保険制度と地域医療構想 3. 生活保護法と生活困窮者自立支援法 4. 障害者福祉 5. 児童福祉 6. 地域福祉 7. 介護保険制度と地域包括ケアシステム 8. テスト・まとめ
評価法	受講態度、課題レポート、試験により総合的に判断する
受講生への要望	社会の変化に伴い、看護師の役割や就労場所も多様化してきています。医療機関に限らず、在宅や施設など、対象者の生活の場や個別性に応じたケアが期待されています。このような多様化・複雑化する対象者のニーズに応えるためにも、関連する社会福祉制度やそのしくみについてしっかり学んでください。
テキスト	書名／著者名／発行所 1)系統看護学講座　専門基礎分野 「社会保障・社会福祉」／福田　素生／医学書院 ※講義時適宜資料を配布する
参考文献	書名／著者名／発行所